
専門委員会のおゆみ

商品活動

ふだんの暮らしに役立ち、安全・安心な食生活のために、商品の開発・改善に取り組んでいます。

これまでの特徴的な取り組み

●CO・OPママの料理集の発行

コープ商品の普及をめざし、機関紙「虹のはた」の料理記事の抜粋や各運営委員会から紹介されたものをもとに商品委員が料理研修会を繰り返し行い、1982年「CO・OPママの料理集」を作成しました。この料理集を利用し、各地区で組合員向け料理講習会を頻繁に行い、商品の普及拡大をはかりました。

●とうふ

1985年に商品委員会で実施した、豆腐に関する調査やアンケートの結果を踏まえ、中頭食品センターの協力のもと添加物を使わない豆腐が開発されました。



●ポーク缶

組合員の「添加物を使わない、安心して食べられるポーク缶を」という声を受け、(株)沖縄ホームルの協力のもと3年8カ月をかけて開発、1988年に世界初の無添加のポーク缶が誕生しました。

●米

復帰前は外国米、復帰後も1982年までは政府米、自主流通米が買えるようになった1983年以降もおいしいお米は高価だった沖縄。「安全で安くておいしいお米が食べたい」そんな組合員の声を受けて、1991年から「熊本産ひのひかり」が取り入れられました。

●ユイロール

1989年、県産トイレットペーパーの開発に取り組み供給開始。1993年に回収牛乳パック入り100%県産古紙の「ユイロール」が開発されました。

●産直活動

1985年豊見城村農協との提携で野菜の供給が始まりました。1987年には「生産者の顔が見え、安心して食べられる野菜を」と具志川産直組合との提携で野菜の供給が始まりました。

最近の活動状況

●ローストチキン（2013年）

「大切な人と過ごす食卓に、『産直やんばる若どり』で作ったローストチキンで幸せな時間を過ごしてほしい」と、北部ブロックの組合員と(有)中央食品加工が共同で開発。素材・製法・味にこだわったローストチキンが誕生しました。



●ふすま入り食パン（2015年）

「家族へ健康に配慮した食パンを食べさせたい」と、浦添・宜野湾ブロックの組合員が中心となりオキコ(株)とともに商品開発をすすめました。何度も試作を重ね、「国産ふすま粉」入り、マーガリンの代わりにバターを、保存料に醸造酢を使用し、添加物を極力抑えた食パンが誕生しました。



健康・食育推進委員会

食の安全・安心、健康、食育について考える学習会や体験・参加型の企画に取り組んでいます。

設置の目的

1983年に「食品添加物委員会」が発足。「食品添加物の規制緩和に反対し、食品衛生行政の充実強化を求める沖縄県実行委員会」の中心的な推進役を担いました。その後、「食の安全委員会」や「食の安全を考える会」などの名称で食の安全を考える専門委員会として、「食品衛生法改正に対する請願署名活動」（2000年）、地域の生産者との交流、環境ホルモン・ダイオキシン・天然添加物についての学習、収穫体験や産直活動の実現などに取り組んできました。現在は「健康・食育推進委員会」として、食の安全や健康的な食生活、食育に関する学習や活動をすすめています。

これまでの特徴的な取り組み

●親子米づくりスクール

田植えや稲刈り、しめ飾りづくりを通して食の大切さと主食である米について親子で学ぶ体験型企画で2009年にスタートしました。名護市川上の圃場を地域の農家からお借りしています。多くの親子や3世代での参加があり、食文化を継承する取り組みにもなっています。



●たべる*たいせつキッズクラブ

「企画に参加できなくても食育について学ぶ機会がほしい」という声にこたえて日本生協連が通信教育型の食育講座を作成。2007年度にはコープおきなわでも添削・返信をするサポーターの活動がスタートし、沖縄野菜の資料づくりや受講者交流会などが企画されましたが、参加が広がらず2015年度に終了しました。現在は季刊のテキストが活用できるようになっています。

最近の活動状況

●伊平屋稲刈りツアー

米どころ伊平屋島での稲刈り体験ツアーを2011年よりスタート。沖縄の基幹作物であるさとうきびを使った「黒糖アガラサーミックス」の普及など、



●食品安全に関する学習会・意見交換会

沖縄総合事務局農林水産部との共催により食品表示、食中毒予防、アクリルアミドに関する学習会を開催。消費者と事業者、行政とのリスクコミュニケーションの場づくりをすすめています。

●薬膳講演会

沖縄の食材を、季節に応じ体の要求に耳を傾けながら取り入れていくことの大切さなどを学んでいます。

子育て支援推進委員会

子育てひろば、子育て・孫育て世代向けの学習会など、子育て支援の取り組みをすすめています。

設置の目的

子育て層が組合員の中心であった1980年代とは違い、子育てをめぐる環境は大きく変化し、周りに親族や親しい友人がいない場合、子どもと一緒に地域・社会活動に参加するのが難しくなってきました。生協でも学習会や委員会等に参加する際、乳幼児を一時的に預かる支援への要望が高まり保育活動が全国的に広がりました。コープおきなわでも、ブロックが託児制度を設けたり子育て支援情報マップを発行、子育て支援グループの活動も活発になりました。これらの活動を通して子育て支援の必要性、支援活動に対するニーズの高さから、子育て中の親子を応援する取り組みが広がりました。2004年には「子育て支援をすすめる会」が発足し、「子育て支援をし隊（会）」「子育て支援すすめ隊」等、名称変更をしながら、現在は「子育て支援推進委員会」が理事会の元に設置され、組合員への情報提供や子育て支援活動を推進しています。

これまでの特徴的な取り組み

●子育て・食育講演会

小児歯科医による「カミカミ講座」開催や、乳幼児にとって「噛む・食べる」大切さを学べるパネルを作成しました。



●マミーヘルパー研修

今日の子育てをめぐる状況を理解し、一時預かりの役割を再確認し、託児者（マミーヘルパー）としての心得や実際に活かせる技術を学ぶため研修会を行いました。

●子育てひろば

屋根のある親子の遊び場として2007年にコープ山内、コープあっぷるタウンの組合員活動室で定例開催をスタートしました。月に1回開催、予約不要、プログラムなしで、来たい時に来て帰れるゆるやかなつながりの場としてフリースペースを提供しています。

<定例開催日>

コープ山内 第2水曜10～12時

あっぷるタウン 第2木曜10～12時



最近の活動状況

※年度によって活動内容は異なります。

●孫育て・子育て講座

子育て中の方と家族や周りの支援者が思いや情報を共有してほしいという思いを込めて、助産師さんと交流しながらの講座を開催しました。

●3歳からの子ども料理教室

子どもと一緒に台所に立ち、ご飯を作るきっかけ作りになればと開催しています。



環境委員会

二酸化炭素CO₂削減や環境配慮商品の利用など、誰もが取り組みやすい環境保全活動をすすめています。

設置の目的

1981年洗剤委員会発足。合成洗剤の環境へ与える負荷が問題となっていたことから「合成洗剤について詳しく知りたい」「手荒れがひどい」「石けんカスができる」「正しい使用量、使い方を知りたい」「環境破壊と水の汚染について」など組合員の間で洗剤問題への関心が高まってきました。

当初はLAS洗剤、有リン洗剤を追放するため、全国の生協とともに運動をすすめてきました。委員会では各地域の水の硬度との適合性をテストし、洗剤を購入するときの目安にしてもらえるよう組合員に結果を報告、セフターやニュークリーンの導入をすすめてきました。

その後1990年環境委員会が発足しました。

これまでの特徴的な取り組み

●1990年環境問題委員会が発足

水と環境、ゴミ問題などの身近な問題を中心に、環境に対する取り組みが本格化しました。

●総代会で特別決議

1991年には通常総代会で環境問題への取り組み強化の特別決議をおこない、1992年には「コープおきなわ環境方針」を決定しました。また、1993年から牛乳パックの回収が始まり、トレーやカタログの回収などリサイクルの輪を広げました。

●地域での環境活動

各地域の運営委員が中心となって、空気、雨、水の汚染状況を調査する環境測定活動に取り組みました。また環境委員会では環境活動のリーダー養成を目的に、地球規模の問題から「やんばるウォッチング」まで毎回テーマを替え、専門家や講師を招いてさまざまな角度から計6回の学習講座

を開きました。

最近の活動状況

●レジ袋削減の取り組み

1997年からレジ袋の削減の取り組みのためマイバック運動を開始し「マイバックコンテスト」や「貸し出しマイバック活動」を推進しました。

●CO₂削減の啓蒙活動

全国の生協と一緒に「みんなでエコ! 2008」に取り組みました。家族みんなでできるCO₂削減活動「1日エコライフ」や、「月夜でエコ~十三夜遊び~」を南城市の後援を受け開催する他、浦添市と共催で「川まつり」を地域と一緒に取り組みました。

●体験や活動を通して学ぶ

2013年「山原の森バスツアー」では、森の動植物の観察を通して豊かな森を体感し、環境について学びました。



「木灰そば作り」は、木灰までも利用し無駄のない完全リサイクル社会であった古来琉球の知恵を体感する取り組みとしてとても好評で、毎年開催している人気企画です。



平和推進委員会

二度と家族を戦場に送ることのない平和なくらしをつくるため、様々な企画や活動に取り組んでいます。

設置の目的

1981年「母と子の原爆・戦争展」を生協全体の取り組みとして、各地区運営委員会が中心となって11カ所で開かれ5500名が参加しました。戦争を知らない世代が多くなっているなか、二度と戦争をおこさせないためにも、被爆や悲惨な沖縄戦の実態、筆舌に尽くしがたい戦争体験などを、明日を担う若い世代に正しく語り継いでいくことが極めて重要であると言われました。そうした事を背景として、1984年消費者委員会の3つのグループの1つとして活動を開始しました。

これまでの特徴的な取り組み

●母と子の戦跡めぐりガイドブック発行

1984年、夏休みなどに親子戦跡めぐりが取り組まれるようになり、ガイドブックを作って欲しいとの要望に応え、委員が役割分担し作成しました。

●戦跡めぐりガイド養成講座

1985年、「戦跡めぐりガイド養成」を中心に位置づけ講座を開きました。受講者は、運営委員会（15地区）や日本生協連、他の生協が実施する戦跡めぐりでガイドを担当しました。

●普天間基地返還に伴う学習会

1997年、普天間飛行場返還にともなう名護市の海上代替施設建設への関心が高まるなか、学習会や視察などが行われました。

●平和活動の基本政策を策定

「二度と家族を戦場に送ることのない平和なくらしを子ども達に引き継ぐために」を基本として、「沖縄戦・被爆の実相を学び、悲惨な体験を語り

継ぎ、伝える」こと、「核兵器廃絶の取り組みをすすめる」こと、「平和憲法と非核3原則を遵守すること」、「基地問題に取り組む」など活動の指針をまとめました。

最近の活動状況

●諸団体と連携した取り組み

2000年には沖縄県生協連や全国の生協と協力して「生協平和フォーラム in おきなわ」を開催し、45生協から753名が参加して平和を愛する心を全国に発信しました。

また、嘉手納基地を取り囲む「人間の鎖」や、2004年沖縄大ヘリ墜落事故への要請行動やパネル展などを開催しました。

●沖縄戦跡・基地めぐりの開催

毎年継続して開催しています。戦跡をめぐり、沖縄戦の実相について学び、また米軍基地については、沖縄のおかれた現状について学びます。委員会メンバーは各ポイントでのガイドを担当しました。



●6・23ファミリーピースウォーク

「慰霊の日に南部路を歩きながら、沖縄戦と平和について考える機会」として開催し2015年で第22回を数えます。

くらし見直し推進委員会

社会保障制度、ライフプラン、消費者問題など、消費者力を高める学習会に取り組みます。

設置の目的

2008年度に、くらしの問題の取り組みをすすめるため新たに設置し、その目的を以下のとおりとしました。

- ①日本生協連の「誰でも、いつでも、どこでも、安心してらせる社会へ」の社会保障デザインを学習し取り組みを進めます。
- ②家計活動（くらし設計ワークショップ）をすすめる中から出される家計の問題へ働きかける取り組みを進めます。
- ③年金、消費税、消費者被害について学び考える取り組みを進めます

これまでの特徴的な取り組み

●くらし設計ワークショップ

かんたん家計簿の学習会は、家計簿を無理なくつけること、継続できるヒントを教え合います。同時に、お金の貯め時・使い時もライフプランに沿って学びました。



●生計費調査モニター

「全国生計費調査」に2016年度は6名が参加しています。北海道から沖縄の生協組合員の約1950人の家計簿データを集計・公表することにより、日常のくらしむきを語る参考資料としたり、社会的アピールの裏付けとしたりするものです。

●ねんきん定期便の見かた学習会

2009年4月より加入者に定期的に発送されているねんきん定期便は「年金加入期間」「これまでの保険料納付額」「老齢年金の見込額」など年金に関する個人情報が記載されていますがその見方が解からず、誰に聞いていいのかも解らないとの声にこたえて開催しました。

●講演会「くらしの中の税」

～知ってお得な税の仕組み～

単に義務として税金を納めるだけではなく「税の仕組み」を知ること、また「確定申告すると税金が戻ってくる」ところ」など学習しました。

最近の活動状況

●防災学習講演会「大震災は沖縄でも起こる」

～家庭でできる災害への備え～

日頃から命を守り、生き残る対策や心がけておきたい事を学び、災害への備えを考える場となりました。沖縄でも過去に地震・津波被害があったこと、今後30年間に震度6弱に見舞われる確率は4～18%と、全国平均より高くなっているとの地震動予測地図の解説や地震、津波の基礎知識・発生の仕組みなどを学びました。

●学習講演会「マイナンバー」ってなに？

行政の効率化、国民の利便性の向上、公平・公正な社会の実現など導入に関する政府広報がある一方で、「個人情報の流出が心配」などの不安の声にこたえ開催し制度の仕組みを学びました。

福祉的な活動

誰もが安心してらせる地域をめざして福祉活動に取り組んでいます。

これまでの特徴的な取り組み

●くらし助け合いの会 ちゅいしーじー

1994年、くらしの中でお手伝いが必要な方と、少くならお手伝いができるという人が「困ったときはお互いさま」の気持ちで助け合う会として発足。高齢の方や産前・産後、けがをされた方などの家事の手伝い、庭のお手入れ、話し相手など、人と人のつながりを大切に活動すすめてきました。

2014年の「おたがいさま牧港」設立にともない、くらし助け合いの会は発展解消し20年の活動を終了しました。



最近の活動状況

●おたがいさま

2014年に始まった「コープおたがいさま」は、困っている『利用者』と誰かの役に立ちたい『応援者』をつなぎ、有償でお互いを支え合うシステムです。草刈りや犬の散歩、掃除や料理など、得意分野をあいている時間で有効活用でき、利用者も有償なので気兼ねなく頼むことができます。



●協同購入の買い物支援

協同購入では、お買物でお困りの方にカタログでゆっくり商品を選んでいただき、玄関先など所定の場所までお届けしています。2015年には利用手数料が半額になる制度「キッズ割」(妊娠中から小学校入学前のお子様がいる方を対象)、「シルバー割」(満70歳以上の方を対象)もできました。



●店舗の買い物支援

店舗では、購入額を割引する「コープシルバーデー」(毎月15日、60歳以上対象)、「キッズデー」(毎月5日、小学校入学前のお子様がいいらっしゃる組合員対象)を実施しています。

また、高齢者や障がいのある組合員さんからの声を受けて、店舗で購入した商品のお持ち帰りを代行する「お届けサービス」を実施しています。

2014年からは、「近所にお店が無く車も運転できない」「共同購入の注文書を書くことができない」という声を受け、移動店舗「コープのまちかど便」をスタート。高齢者が多い地域を中心に一部地域で稼働しています。



●夕食宅配（ゆ〜たく）

高齢者や療養中、多忙など、食事作りが難しい人に、コープおきなわの添加物基準をクリアした素材を使用し、栄養士がカロリーや塩分、栄養バランスを考えた日替わり弁当をお届けしています。月～金曜の5日単位で、ご飯の入った弁当コース、おかずコースがあります。利用者の見守り活動、緊急連絡先の登録（希望者のみ）も行っています。



●団体利用

コープは個人が組合員となって利用するのが基本ですが、「子どもたちのために保育所や学童でも利用したい」という要望は強く、現在は県の許可を受けて保育所や学校、医療施設などの団体でも利用できるようになりました。



●就労継続支援

生活協同組合は一人ひとりのよりよい暮らしを協同の力で実現するための組織です。障がい者の就労支援、自立支援は、コープおきなわの理念である「ともに創る 暮らしと未来」の実践です。2014年8月特例子会社「株式会社ハートコープおきなわ」を設立し、2015年4月には就労継続支援A型事業所「株式会社ハートランドおきなわ」を設立しました。



●見守り協定

組合員や地域の高齢者などの異変に気付いた場合、事前に取り決めた連絡先に連絡・通報をおこないます。「地域とともに、暮らしをよくしていく取り組み」の一環として、糸満市、那覇市、南城市、沖縄市、北谷町と「地域見守り活動」を推進しています。

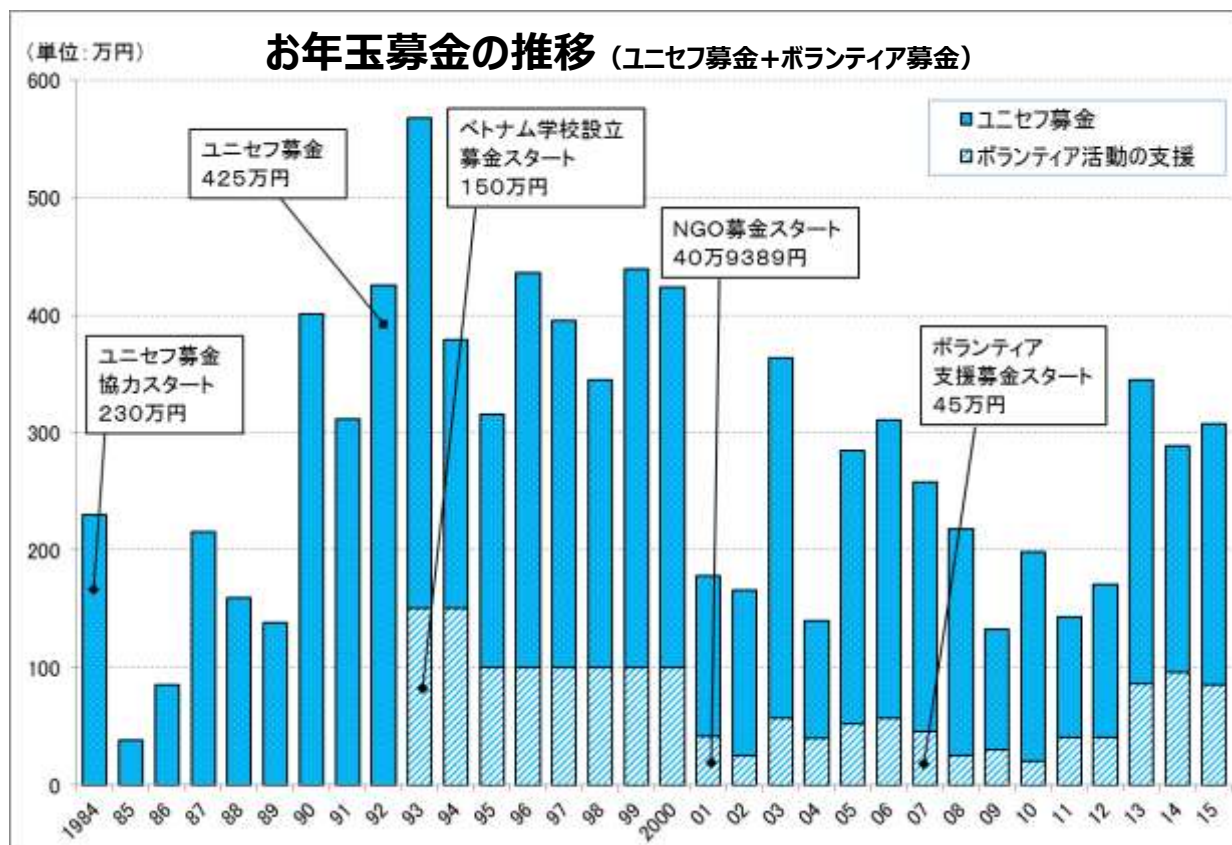


●生協のふくしを考える会

困った時のお役立ち情報として、「暮らしのサポートガイド」を作成しました。

募金活動

世界の子どもたちを守る活動や災害地域への緊急支援、平和の取り組みを支える募金活動に取り組んでいます。



●お年玉募金

①ユニセフ募金

1984年度、日本ユニセフ協会の運動趣旨に賛同し協カスタート。1995年度からはユニセフの活動全体を支える「一般募金」と、支援する国とプロジェクトを指定する「指定募金」で協カしています。

②ボランティア活動の支援

1993～2000年度、日本国際ボランティアセンター（JVC）に賛同して「ベトナム学校設立募金」に取り組み、2001～2006年は県内のボランティア団体援助として「NGO募金」に取り組みました。2007年度からは「ボランティア団体募金」として県内を拠点に児童福祉に携わる団体支援に使われています。

●平和活動募金

1993年度にスタート。「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」（旧・ヒロシマ・ナガサキ行動）派遣や「6・23ファミリーピースウォーク」（旧・6・23平和行進）などの平和活動企画に使われています。

●緊急募金

自然災害による被災や、迅速な支援が必要な人たちのために使われています。

◆ これまでの主な取り組み ◆

1981年度 原水禁大会代表派遣
1982年度 7・23長崎水害救援金
1984年度 原水禁大会代表派遣、1フィート運動、ユニセフ募金
1985年度 ユニセフ募金
1986年度 ユニセフ募金
1987年度 ユニセフ募金
1988年度 ユニセフ募金
1989年度 ユニセフ募金
1990年度 ユニセフ募金
1991年度 ユニセフ募金
1992年度 ユニセフ募金
1993年度 北海道南西沖地震救援金、久米島台風募金、平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ベトナム学校設立募金）
1994年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ベトナム学校設立募金）阪神大震災救援募金
1995年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフ指定募金、ベトナム学校設立募金）
1996年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフ指定募金、ベトナム学校設立募金）
1997年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフ指定募金、ベトナム学校設立募金）
1998年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフ指定募金、ベトナム学校設立募金）
1999年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフ指定募金、ベトナム学校設立募金）
2000年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフ指定募金、ベトナム学校設立募金）
2001年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、NGO支援募金）
2002年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、NGO支援募金）
2003年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、NGO支援募金）

2004年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ東ティモール指定募金、NGO支援募金）

2005年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ東ティモール指定募金、NGO支援募金）

2006年度 平和活動募金、ジャワ島中部地震ユニセフ緊急募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、NGO支援募金）

2007年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ボランティア団体募金）

2008年度 平和活動募金、ミャンマー・サイクロン緊急募金、中国四川省大地震緊急募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフネパール指定募金、ボランティア団体募金）

2009年度 平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフネパール指定募金、ボランティア団体募金）、ハイチ地震災害募金、核不拡散条約（NPT）再検討会議に向けた募金

2010年度 平和活動募金、口蹄疫に立ち向かう宮崎の畜産関係者を励ます応援募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフネパール指定募金、ボランティア団体募金）、美優ちゃん募金、東日本大震災被災者救援募金

2011年度 東日本大震災復興支援募金、平和活動募金、みやぎ生協ふれあい喫茶を支えるお茶菓子代募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフネパール指定募金、ボランティア団体募金）

2012年度 東日本大震災復興支援募金、平和活動募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフネパール指定募金、ボランティア団体募金）

2013年度 東日本大震災復興支援募金、平和活動募金、フィリピン台風被害支援募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフネパール指定募金、ボランティア団体募金）

2014年度 東日本大震災復興支援募金、平和活動募金、広島豪雨・土砂災害緊急支援募金、らい君心臓移植募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフ東ティモール指定募金、ボランティア団体募金）、核不拡散条約（NPT）要請行動派遣募金

2015年度 東日本大震災復興支援募金、平和活動募金、ネパール地震募金、北関東・東北豪雨被災者支援募金、のあちゃんに心臓移植を！募金、与那国台風被害支援の緊急募金、お年玉募金（ユニセフ一般募金、ユニセフ東ティモール指定募金、ボランティア団体募金）

機関誌

年表



- 1975年 「きょうどう」第1号、「生活」第1号発行
- 1977年 「沖縄南部市民生協ニュース」1号発行
- 1978年 組合員だより「しーさー」1号発行
- 1980年 機関紙委員会発足
「県民生協ニュース（虹のはた）」創刊
- 1983年 機関紙委員会を「虹のはた編集委員会」に
名称変更
- 1984年 通信員制度を設ける
- 1986年 全国新年号機関紙コンクールで佳作に入賞
- 1988年 毎週発行に
- 1991年 「虹のはた編集委員会」を「広報委員会」
へ名称変更
- 1992年 一部紙面をカラーに変更
月1回発行、冊子化（A4・20ページ）
- 1993年 機関紙の名称を「Withこーぷ」へ変更
- 1998年 月2回発行、オールカラーに
- 2003年 機関紙の名称を「ういずこーぷ」へ変更
- 2013年 増ページオールカラー、月1回発行へ変更

基本コンセプト

「食」と「つながり」を大切に豊かなくらしをと
もにつくる。

編集方針

- (1) くらしの視点からのテーマの設定
- (2) 生協の考え方が伝わる紙面
- (3) 組合員さん同士の交流が広がる
- (4) 読んだ方の家族で会話が生まれる
- (5) 食の安全について学習する紙面
- (6) 今日加入する方が読んでわかりやすい表現

「食」と「交流」を大切に、家族の会話
や組合員どうしの交流がひろがることを
めざして、誌面作りに取り組んでいます。

●定期発行に苦勞

生協の方針や活動を組合員に広く知らせるため、市民生協設立準備会では機関紙「きょうどう」「生活」が手がけられ、市民生協設立後も「市民生協ニュース」などが発行されました。1978年には理事会内に広報部をおき、組合員だより「しーさー」を6号まで出しましたが、いずれも継続にはいたりませんでした。

●組合員の手で新聞づくりスタート

1980年7月、専門委員会として初めて機関紙委員会が発足。企画・編集・校正といった活動を委員で分担しあう、組合員の手による新聞づくりが始まりました。機関紙「虹のはた」の定期発行で、生協の方針や地区のさまざまな取り組みも全組合員に素早く知らせることができるようになり、生協の活動を知らせる上で大きな意義をもちました。

●「食」と「つながり」を大切に

2008年の「CO・OP手作り餃子」事件発生を受けて、「食の安全と安心」について考える企画を継続して取り上げてきました。2013年度には、食事の大切さを考えるきっかけにしておうと「弁当の日」の取り組み紹介や、2014年1月からは、子どもと作るお弁当をコーナーにするなど、弁当を通じた「食」にちなむ話題の交流が広がりました。

